

干潟と保全の取り組み (No. 41)

干潟の名称	男里川河口干潟		
海域(府県)名*1	大阪湾(大阪府)	エリア名*1	
干潟の面積	2.1 ha 出典:【環境省 HP (生物多様の観点から重要度の高い海域)】		
干潟のタイプ	前浜干潟 河口干潟 潟湖干潟 沖州 人工干潟 その他()		
干潟の特徴	規模は小さいが、塩生植物が豊富で底生動物も大阪湾ではここでしか見られない種が数多く生息している。(前出:環境省 HP より)		
保全の取り組み名称	清掃、観察会、環境学習、調査		
実施団体名	男里川干潟を守る会 (平成7年4月設立)		
連絡先住所	〒590-0521 大阪府泉南市樽井2-5-2		
代表者名	田中 正視	Email	masami-t@nike.eonet.ne.jp
団体会員数	20 名	HP	無し
(活動の概要)			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 定例清掃・観察会: 毎月1回(第4日曜) ・ 環境学習の実施: 地元(泉南市・阪南市など)の幼稚園・保育所・小学校・中学校など ・ 調査活動など: 「アマモ場再生」環境学習(講義・実習・現地活動) <p>「大阪湾見守りネット」(「ほっといたらあかんやん!大阪湾フォーラム」)に設立以来参加、発表</p> <p>「大阪湾生き物一斉調査」に平成20年第1回から参加(樫井川河口・男里川河口干潟)</p> <p>「私の水辺大発表会」泉南子ども交流会に平成18年から参加、企画運営委員</p> <p>「泉南市ABCまつり」「魚庭(なにわ)の海づくり大会」などでのパネル展示発表など</p>			
(主な活動内容)			
種の供給・再生 <input type="checkbox"/> 調査研究 <input type="checkbox"/> 干潟清掃 <input type="checkbox"/> 研修会・学習会 <input type="checkbox"/> 他との協同連携 <input type="checkbox"/> その他()			
(最近の活動実績)			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 平成29年5月27日 第10回大阪湾生き物一斉調査(樫井川河口) ・ 平成29年6月8日 第10回大阪湾生き物一斉調査(男里川河口干潟) ・ 平成29年9月3日 泉南市ABC委員会環境美化運動(ハゼ釣り) 			
			



*1:「瀬戸内海における藻場・干潟分布状況調査」(環境省:H28年~30年)参照

関連する生物種等 <input type="checkbox"/> は希少種 ○野鳥: 渡り鳥の中継地、ハヤブサ、ミサゴなど ○干潟の生き物: <input type="checkbox"/> ハクセンシオマネギ、 <input type="checkbox"/> シオマネギ、ヤマトオサガニ、トビハゼなど ○海藻(海草): ○植物: ヨシ、 <input type="checkbox"/> ハマヒルガオ、 <input type="checkbox"/> ハマサジ、 <input type="checkbox"/> ハママツナ
希少種の特徴等



干潟と保全の取り組み (No. 42)

干潟の名称	西宮市甲子園浜		
海域(府県)名*1	大阪湾(兵庫県)	エリア名*1	
干潟の面積	10ha 出典：【(鳥獣保護区特別保護区の甲子園浜生物保護地区指定：2006.1)】		
干潟のタイプ	前浜干潟 河口干潟 潟湖干潟 沖州 人工干潟 その他()		
干潟の特徴	自然の砂浜・干潟・磯がある貴重な浜。砂浜の東側には野鳥の貴重な餌場で、面積が少なくなりつつある干潟があり、国設浜甲子園鳥獣保護区・特別保護区となっている。		
保全の取り組み名称	甲子園浜の干潟等、海浜の自然環境を守るための普及啓発事業		
実施団体名	特定非営利活動法人 海浜の自然環境を守る会		
連絡先住所	〒663-8143 西宮市枝川町19-10 甲子園浜自然環境センター内 甲子園地区埋立事業対策協議会気付		
代表者名	前田 文信	Email	
団体会員数	90名	HP	http://www.npo-koshienhama.com/
(活動の概要)	西宮市甲子園浜及び干潟に飛来する野鳥を保護するため、春の渡りの時期保護区への立ち入り禁止の啓発を行う。野鳥観察会、生き物観察会を実施、また植物を含む生き物の調査を実施。海浜清掃。		
(主な活動内容)	種の供給・再生 調査研究 干潟清掃 研修会・学習会 他との協同連携 その他()		
(最近の活動実績)	<ul style="list-style-type: none"> 平成29年4月29日 干潟の鳥観察会 平成29年4月29日～5月7日 特別鳥獣保護区立ち入り禁止啓発チラシ配り 平成29年5月27日 第10回大阪湾生き物一斉調査 平成29年6月4日 海浜清掃 参加104名 平成29年6月10日 甲子園浜遺跡探検 平成29年6月17日 外来植物観察会 参加20名 平成29年7月17日 海浜清掃 参加90名 平成29年9月24日 海浜清掃 参加108名 平成29年10月1日 『写真でよみがえる甲子園浜』発行 平成29年10月2日～9日 甲子園浜12ヶ月展開催 平成29年11月5日 伊藤ハム合同クリーンアップ 参加計130名 <div style="text-align: center;">  <p>5/27 第10回大阪湾生き物一斉調査</p> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 20px;"> <div style="text-align: center;">  <p>6/10 遺跡探検</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>6/17 外来植物観察会</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>11/5 クリーンアップ</p> </div> </div>		

*1：「瀬戸内海における藻場・干潟分布状況調査」(環境省：H28年～30年)参照

関連する生物種等	は希少種
<p>○野鳥：スズガモ、ヒドリガモ、ホシハジロ、コガモ、オナガガモ、ホオジロガモ、カンムリカイツブリ、ウミネコ、ユリカモメ、カワウ、アオサギ、キョウジョシギ、イソシギ、シロチドリ、コアジサシ、チュウシャクシギ、ダイサギ、イソヒヨドリ</p> <p>○干潟の生き物：イソガニ、ケフサイソガニ、イシガニ、ユビナガホンヤドカリ、ウミナナ、アサリ、フジツボ、イボニシ、イシダタミガイ、クチバガイ、タテジマイソギンチャク、スナガニ、テッポウエビ、</p> <p>○海藻(海草)：イソダンツウ、ムカデノリ</p> <p>○植物：ハマビシ、ハマボウフウ、ハマゴウ、ハマヒルガオ、オカヒジキ、コウボウシバ、コウボウムギ、ツルナ、ハマオモト</p>	
希少種の特徴等	
<p>コアジサシ(環境省絶滅危惧Ⅱ類(VU)、兵庫県Bランク種) 分類：チドリ目カモメ科 特徴等：日本に野鳥として渡来し、河川や海岸でコロニーを作り集団繁殖する。大阪湾沿岸では甲子園浜と西宮浜でのみ100羽以上の成鳥からなる大規模繁殖コロニーが形成される。日豪等の二国間渡り鳥条約に基づき、「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」で「国際希少野生動植物種に指定されており、環境省では「コアジサシ繁殖地の保全・配慮指針」を取りまとめ、コアジサシ繁殖地の保全・配慮の考え方やその具体的な手法等を示しています。開発事業等を行うものだけでなく、コアジサシの保護活動等に取り組む関係者を含め、幅広く活用されることを期待されています。甲子園浜では、沖埋立地の空き地が減って、営巣が激減していると思われる。</p> <div style="text-align: right;">  </div> <p>ハマビシ(環境省絶滅危惧ⅠB類(EN)、兵庫県Aランク種) 分類：被子植物門双子葉類離弁花群ハマビシ科 特徴等：海岸や周辺の砂地に生育する1年草または越年草。 甲子園浜に見られるものは、2003年淡路島の集団の種子を移植したもので、もともと自生していたものではない。2016年に30m西の海岸に新たに出現したものが2017年も花咲いた。</p> <div style="text-align: right;">  </div>	

干潟と保全の取り組み (No. ④3)

干潟の名称	須磨海岸		
海域(府県)名*1	大阪湾(兵庫県)	エリア名*1	瀬戸内海東部
干潟の面積	— ha 出典:【 () 】		
干潟のタイプ	前浜干潟 河口干潟 潟湖干潟 沖州 人工干潟 その他()		
干潟の特徴	ホトトギスマットの形成により、生物多様性の再生・創出を妨げる材料となっている。		
保全の取り組み名称	潮干狩りの復活を目指した須磨海岸の里海づくり		
実施団体名	特定非営利活動法人 豊かな森川海を育てる会		
連絡先住所	〒655-0007 神戸市垂水区多聞台 3-11-12-603		
代表者名	島本信夫	Email	shimamoto@mtf.biglobe.ne.jp
団体会員数	個人 61名 団体 4団体	HP	http://www.7b.biglobe.ne.jp/~yutakana-morikawaumi/
(活動の概要)	流域の森・川・海を巡る物質循環のバランスを回復させ、持続可能な自然共生型、資源循環型の社会づくりに貢献する。		
(主な活動内容)	種の供給・再生 調査研究 磯清掃 食害動物駆除 研修会・学習会 他との協同連携 その他(競合種の防除)		
(最近の活動実績)	<ul style="list-style-type: none"> 平成28年9月25日 / 10月23日 / 11月13日 / 平成29年2月26日 ホトトギスマット防除活動 平成29年4月15日 里海づくりと漁業体験 平成29年9月23日 / 11月5日 産卵母貝の育成施設設置(9/23)、食害種の駆除(11/5) 		
			
	ホトトギスマットの防除活動	産卵母貝の保護育成施設 (被覆網付き鉄枠)	

*1:「瀬戸内海における藻場・干潟分布状況調査」(環境省: H28年~30年) 参照

関連する生物種等	は希少種
<p>須磨海岸に出現する水生生物の種リスト及び希少種の分類は別紙のとおり。</p> <p>うち希少種はアダムスタマガイ(環境省 RL 準絶滅危惧)、タイラギ(兵庫県 C ランク)、ハボウキガイ(兵庫県 A ランク)、シオフキガイ(兵庫県 A ランク)、ミルクイガイ(兵庫県・神戸市 A ランク)、マテガイ(兵庫県要注目種)、ヒガシナメクジウオ(環境省絶滅危惧 II 類、兵庫県 B ランク)</p>	
希少種の特徴等	
<p>アダムスタマガイ(環境省準絶滅危惧)</p> <p>分類: 軟体動物 腹足綱 盤足目 タマガイ科</p> <p>特徴等: 殻径約 2 cm の球形で殻はやや厚い。蓋は石灰質で白色、蓋の溝は浅く狭い。日本固有種で、房総半島以南から九州にかけて分布する。内湾の泥質干潟から潮下帯にすむ。以前は干潟域に普通に見られたが、干潟の消滅や浚渫、底質の有機汚濁などの影響で生息数を減らしている。保全するためには、干潟の保全や、内湾域の水質の保全が必要とされる。</p>	
	
<p>ヒガシナメクジウオ(環境省絶滅危惧 II 類、兵庫県ランク)</p> <p>分類: 脊索動物 頭索綱 ナメクジウオ目 ナメクジウオ科</p> <p>特徴等: 体長約 5 cm で、左右から扁平な細長い形をしている。鱗はなく、半透明で、普段は砂の中に潜って生活している。日本では関東から九州にかけての太平洋岸と瀬戸内海に分布が集中している。かつては干潟などに普通に見られたが、干潟の消滅や底質悪化により激減している。</p>	
	

干潟と保全の取り組み (No. 44)

干潟の名称	須磨海岸		
海域(府県)名*1	大阪湾(兵庫県)	エリア名*1	
干潟の面積	10ha 出展:【 () 】		
干潟のタイプ	前浜干潟 河口干潟 潟湖干潟 沖洲 人工干潟 その他 ()		
干潟の特徴	地質は、砂質であるがホトトギスマットが海底を覆う状況にある。		
保全の取り組み名称	干潟等の保全		
実施団体名	神戸のアサリを復活させる会		
連絡先住所	〒655-0892 神戸市垂水区平磯 3-1-10		
代表者名	岡田真一	Email	
団体会員数	27名	HP	
(活動の概要) 干潟の耕うん、漂流漂着物の除去			
(主な活動内容) 種の供給・再生 調査研究 干潟清掃 研修会・学習会 他との協同連携 その他 ()			
(現在の活動実績) ・28年 6月 1日～ 2日 (活動内容) 漁船によって耕うん機を曳き、干潟域を耕した。 ・28年10月 2日 (活動内容) 漁船によって耕うん機を曳き、干潟域を耕した。 ・28年10月26日 (活動内容) 耕うんを行った場所のモニタリングを行い、耕うん後の干潟の状況を確認した。 ・29年 6月24日、11月3・4日 (活動内容) 漁船によって耕うん機を曳き、干潟域を耕した。			

関連する生物種等	は希少種
○野鳥： ○藻場の生き物： ○海藻(海草) ○植物	
希少種の特徴等	
「希少種は存在しない」	



*1:「瀬戸内海における藻場・干潟分布状況調査」(環境省: H28年～30年) 参照

干潟と保全の取り組み (No. 45)

干潟の名称	尼崎運河内、北堀運河		
海域(府県)名*1	大阪湾(兵庫県)	エリア名*1	東部海域
干潟の面積	81㎡ ha 出典:【現地測量による】		
干潟のタイプ	前浜干潟 河口干潟 潟湖干潟 沖州(人工干潟) その他()		
干潟の特徴	<p>尼崎運河水質浄化施設内に設置されている人工干潟であり兵庫県事業として2012年3月に竣工した。水質浄化施設は、通水式の生物浄化手法により水中の栄養塩・懸濁物を除去し、貝や藻類などの浄化生物は適切な時期に人力で回収し堆肥材料として活用している。本干潟は、浄化プロセスの末端に位置しており、干潟の浄化力と生物多様性の創出を期待され、市民参加による順応的管理がなされている。</p>		
保全の取り組み名称	地域協働による尼崎運河の環境改善と活用		
実施団体名	尼崎運河〇〇クラブ		
連絡先住所	〒660-0083 尼崎市道意町7-21		
代表者名	中岡禎雄	Email	sadao_7028@yahoo.co.jp
団体会員数	23名	HP	https://www.facebook.com/ama21canal/

(活動の概要)

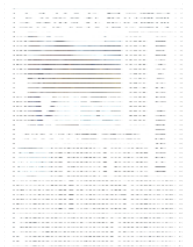
活動は、生物多様性創出、地域活性化を目標としており、「里海」づくり活動とも言える。本活動は、水質浄化施設建設に係る現地技術実証試験の開始に合わせて始められ、2007年から約10年間続いている。参加者は、主に地元の中学生(成良中学校ネイチャークラブ)、高校生(尼崎小田高等学校)、一般参加者であり、企画・指導は主に、徳島大学(上月・山中研究室)、尼崎キャナルガイドの会、NPO人と自然とまちづくりが担当している。

生物多様性創出活動では、ヨシの移植と刈り取り(水質浄化に寄与)、生物生息に適した潮だまりや磯場の創出、底質管理を目的とした地盤形状変更、環境モニタリングなどを行っている。

地域活性化としては、刈り取ったヨシの活用方法として“ミニすだれ”の製作方法を考案し、すだれ製作会や活用コンテストなどの開催により、世代間交流の場を提供している。

以上の活動は、科学的知見に基づき、市民参加による順応的管理により進められており、干潟の底質調査なども市民協働により実施しており、環境学習の機会にもなっている。本干潟では尼崎市が主催している小学生向けの環境学習会も年に10回程度実施されている。

本活動を含む取り組みは、県外からも注目されており、大阪湾再生行動計画(第2期)アピールポイントとして選定、石井国土交通大臣視察(2017年5月21日)、成良中学校の「第52回全国野生生物保護実績発表大会」にて「林野庁長官賞」を受賞、新聞報道(朝日新聞2017年12月6日、他)などがある。



(主な活動内容)
種の供給・再生(調査研究) 干潟清掃 研修会・学習会 他との協同連携
その他(生物生息場創出、水質浄化、地域活性化、世代間交流)

(最近の活動実績)

- 2017年 7月16日
(活動内容): 干潟の生物調査、順応的管理ワークショップ



- 2017年 8月20日
(活動内容): 干潟の地形改良、ミニすだれづくり講座



- 2017年 9月10日
(活動内容): 干潟の生き物探し調査、ミニすだれづくり講座



- 2018年 2月18日
(活動内容): ヨシの刈り取り



*1:「瀬戸内海における藻場・干潟分布状況調査」(環境省: H28年~30年) 参照

関連する生物種等

は希少種

- 野鳥：ホシハジロ、カルガモ、キンクロハジロ（もしくはスズガモ）、オオバン、イソヒヨドリ、ササゴイ、ウミウ、カワセミなど
- 干潟の生き物：チチュウカイミドリガニ、ヒライソガニ、イソガニ、フナムシなど
- 海草（海草）：付着性微細藻類
- 植物：ヨシ（アシ）

希少種の特徴等

ホシハジロ：冬季に飛来し越冬する



カワセミ（他県では危惧種）：干潟に飛来した様子を確認

